

# 協議資料

(1) 子供の貧困対策における社会教育の支援について	4
・ 企業と連携した子供応援事業	
(2) 学校・家庭・地域の連携の再構築について	6
・ ①社会教育主事等の養成	7
・ ②社会教育・生涯学習推進講座	8
・ ③学校支援コーディネーター研修講座	10
・ ④社会教育担当者研修会	11
・ ⑤地域とともに歩む学校づくり推進支援事業（学校支援地域本部） 放課後子供教室推進事業	13
・ ⑥通学合宿推進事業	14

# (1) 子供の貧困対策における社会教育の支援について

## 企業と連携した子供応援事業について

教育庁教育振興部生涯学習課

子供の健やかな成長を支援する「ちば家庭・学校・地域応援企業等登録制度」と、放課後や週末等に学校の余裕教室を活用して、交流活動等に取り組むなど心豊かで健やかな子供の育成を目指す「放課後子供教室推進事業」をつなぎ、全ての子供を対象とした放課後等の活動を支援する新たな仕組みを構築する。

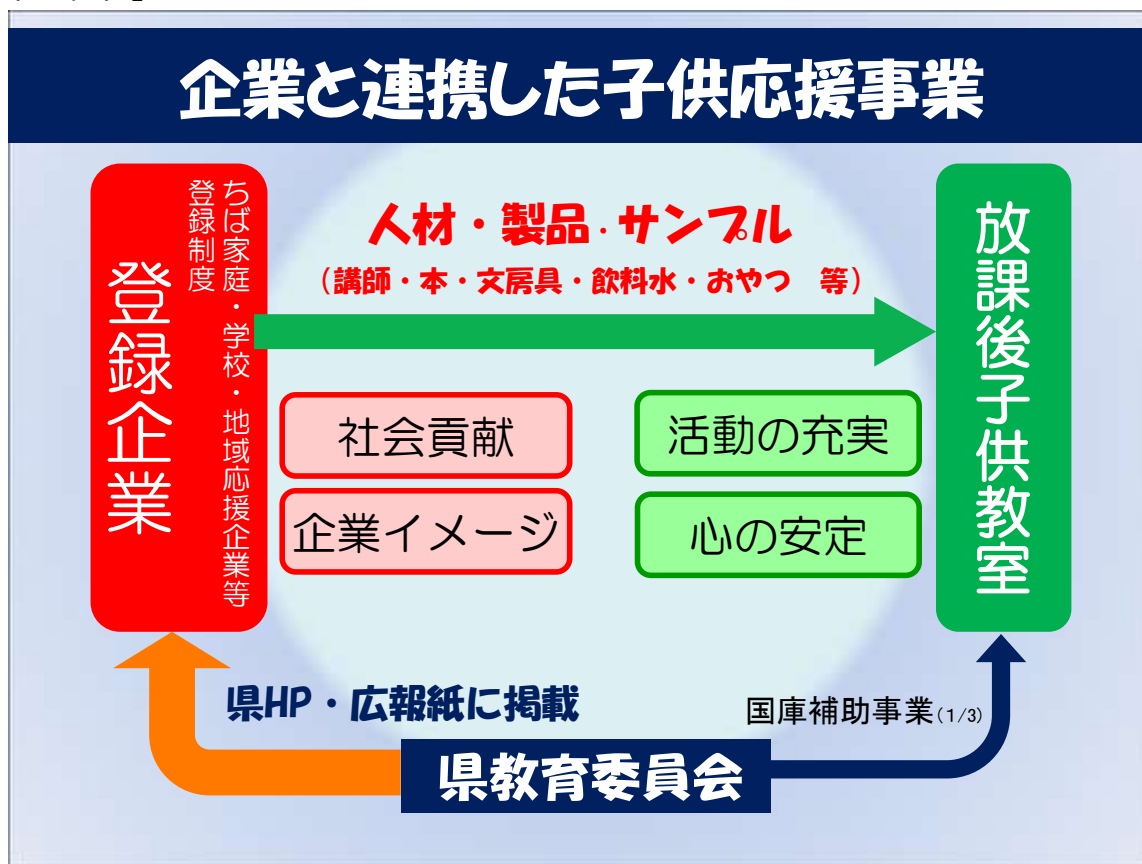
### 【期待される効果】

企業と連携することで、「放課後子供教室」における人的、物質的な面での支援が充実し、これまで以上に子供たちの活動の充実、心の安定等が図れ、併せて安心安全な放課後の時間を提供することにもつながる。

### 【事業計画】

平成28年度から「モデル教室」で実践したノウハウを、31年度以降に県内に拡充することを目指して3年計画で取り組む。

### 【事業の仕組】



## 【平成28年度の活動報告】

- 1 学校支援コーディネーター研修講座＜1期＞（5月27日、6月2日）  
「企業と連携した放課後子供教室」の講義
  - 2 モデル教室による試行のための準備（今年度内に2教室での試行開始を目指す）
    - (1) 企業の選定  
「ちば家庭・学校・地域応援企業等登録制度」登録企業67社の取組状況及び各教育事務所からの情報を参考にして候補企業数社を選定。
    - (2) 企業及び関係教育委員会への協力依頼（予定）
      - ・ A社：10月〇日に訪問し、事業説明及び協力依頼。  
A社の所在市町担当課：10月13日に事業説明。
      - ・ B社：10月〇日に訪問し、事業説明及び協力依頼。  
B社の所在市町担当課：10月14日に事業説明。
- ※ 上記2社の協力が得られない場合は、他の候補企業に依頼する予定。

## 【今後の予定】

- 1 平成28年度
  - ・ 協力企業及びモデル教室の決定
  - ・ モデル教室における試行と課題の検討
- 2 平成29～30年度
  - ・ 担当者会議の設置  
担当者：生涯学習課、関係企業、関係放課後子供教室、関係市教育委員会、関係教育事務所の各担当者
  - 業 務：モデル教室における試行の継続、モデル教室の追加、課題の検討
  - ・ 関係市町及び企業への周知・啓発（リーフレットの作成・配布）
  - ・ 「ちば家庭・学校・地域応援企業等登録制度」実施要綱の改正について検討
  - ・ 事業成果の発表（学校支援コーディネーター研修講座、放課後子ども総合プラン指導スタッフ等研修会、教育CSRフォーラム等）

## (2) 学校・家庭・地域の連携の再構築について

### 【第1回(3月)の協議の趣旨】

課の施策を「学校・家庭・地域の連携の再構築」の観点から見直し、今後の施策の展開に生かしていく上で、配慮や改善の必要な「視点」「工夫すべき点」「強化すべき点」について御意見をいただく。

再構築とは 連携体制の不足している部分を補う 新たな方向性「協働」の構築

### < 審議会の協議から >

地域の活動を繋げる地域の指導者、コーディネーターの養成

学校支援コーディネーターの活用

連携の強化に向けた体制(システム=組織)づくり

公民館との連携(地域人材の活用等)



### < 具体的な取組 >

#### 地域の指導者・コーディネーターの養成

##### 社会教育主事等の養成

- ・ 国立教育政策研究所社会教育実践研究センターにおける社会教育主事講習等研修の受講促進

##### 社会教育・生涯学習推進講座(さわやかちば県民プラザ事業)

- ・ 社会教育関係者のコーディネート能力等の育成

##### 学校支援コーディネーター研修

- ・ 地域コーディネーターの育成

#### 学校支援コーディネーターの活用

##### 社会教育担当者研修

- ・ 学校・地域連携の促進(先進的取組事例の研修を通して)

#### 連携の強化に向けた体制づくり **既存組織の強化**

##### 学校支援地域本部、放課後子供教室の推進

- ・ 取組市町村の拡大

##### 通学合宿の推進

- ・ 地域住民の参画の促進

#### 公民館との連携(地域人材の活用)

##### 社会教育・生涯学習推進講座(さわやかちば県民プラザ事業)

再掲

- ・ 地域人材の育成

##### 社会教育担当者研修(公民館の実践1)

再掲

- ・ 地域人材を生かした学校との連携の取組の推進(先進的取組事例の研修を通して)

##### 通学合宿の推進(公民館の実践2)

再掲

- ・ 公民館等を実施主体とした取組事例の促進

「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組

I 地域の指導者・コーディネーターの養成

○事業名 ①社会教育主事等の養成

○事業内容

- ・社会教育主事の配置促進と有資格者の増加、社会教育に携わる職員の資質向上を図るため、国立教育政策研究所社会教育実践センターで実施される社会教育主事講習や公民館職員専門講座、図書館司書専門講座への受講を促進する。

○昨年度の成果と課題

- ・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催の社会教育主事講習（2講座）29名、同センター研修講座（9講座）45名の受講があった。
- ・学校と地域の連携を進めるため、公立学校教職員等の受講者数の拡大を図る必要がある。

○今年度の取組

視 点 工夫点 強化点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議（市町村教育長会議、市町村生涯学習・社会教育主管課長会議、社会教育主事研修会等）において講習・研修の周知徹底と理解の促進とともに、受講者の拡大を図る。</li> <li>・他課と連携した広報の強化を図る。</li> <li>・先進的な事例を紹介するなど、社会教育主事の役割の重要性の理解を得るための取組をしていく。</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育主事講習Aについては、10名を推薦し内8名が修了した。（2名は分割受講）教職員の受講は2名であった。</li> </ul>
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有資格者が増えるよう、受講生拡大に向け様々な方面からの働きかけが、今後も必要である。</li> </ul>
今後の事業の在り方	※検討中

平成28年度 生涯学習課施策取組シート  
 「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組

地域の指導者・コーディネーターの養成

事業名 社会教育・生涯学習推進講座(さわやかちば県民プラザ事業)

事業内容

- ・社会教育・生涯学習における第一人者を講師とし、コーディネート能力やコミュニケーション能力、企画立案能力等、社会教育・生涯学習関係職員に必要な知識・技術を高める。

昨年度の成果と課題

- ・受講者満足度(94%)、内容が業務や活動に役立つ(95%)等、内容については、高評価を得ている。
- ・受講者数が定員に達しないことから、募集方法等を改善する。

今年度の取組

<p>視点 工夫 強化点</p>	<p>地域の指導者やコーディネーターへの指導・助言のできる知識・技術の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネート能力、コミュニケーション能力の育成</li> <li>・ワークショップ形式による学習の体験を通じたファシリテーション技術の習得</li> <li>・先進事例を元に、地域連携事業等の企画立案演習による事業企画立案力の習得</li> </ul>
<p>事業の成果</p>	<p>&lt;入門コース4/28, コーディネートコース5/19・31, 企画立案・広報コース5/28、6/9、7/14、9/8, コミュニケーションコース6/23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育・生涯学習の基礎を理解できた。</li> <li>・コーディネーターの役割への理解が深まった。</li> <li>・事業の企画立案のポイントが理解できた。</li> <li>・チラシづくりの基礎が理解できた。</li> <li>・地域人材の活用や、ネットワーク構築方法が学べた等(受講者の意見から)</li> </ul> <p>満足度97.6%、役立つ度99.0%(平均)</p>
<p>事業の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座内容に重複が多く、カリキュラムの見直しが必要である。</li> <li>・受講申し込み期間が短く、見直しが必要である。</li> <li>・受講者の在勤市町村に偏りが多く、事業の周知方法に工夫が必要である。</li> </ul>
<p>今後の事業の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース、カリキュラムを見直し、より実践的な内容に再構築するとともに、各講座の体系化を図る。</li> <li>・受講者の少ない地域を対象とした講座のあり方を検討する。(出前講座の実施や県立社会教育施設等を会場に実施する等)</li> </ul>

参加者アンケート（自由記述）声から（抜粋）

（入門コース 4 / 28）

学んだことが多かったです。市民への働きかけをうまくやっていく、そして地域づくりを支えられれば幸いです。

ボランティアの意義、社会教育・生涯学習の意味、地域との共生の重要性がよく分かった。

生涯学習について学べる機会はあまり多くないため、1から学ぶことができ大変ためになった。

（コーディネートコース ・ 5 / 19 ・ 5 / 31）

コーディネートについてかなり難しく考えていましたが、少し肩の力が抜け、相手の話を良く聞き一緒に考えていくように心がけたいと思いました。文章化よりも図式化することが、見る者、聞く者に分かりやすく伝えることを知りました。

コーディネーターの役割を明確に把握していなかったが、その役割について理解が得られて良かった。また、地域との関わり方について自分のやり方をふりかえる機会となった。

（コミュニケーションコース 6 / 23）

クレーム対応。色々な方がいるので難しいですが非常に参考になりました。実践的なことを多く学ばせていただきました。職場に戻って是非活用していきたいと思います。

公民館が置かれている状況、事業を後方する際の注意点、世論調査から公民館に求められていることが再認識できた。

（企画立案・広報コース ・ 5 / 28 ・ 6 / 9）

今回の講座を伺って、また、新しい視点を得られた気がします。他の方の意見たくさん取り入れて、自分の考えも大事に事業に携わっていかれたらと思います。

社会教育計画立案の方法についてとても参考になりました。成功例をたくさんお教えいただき勉強になりました。

同じ講座でも日程やテーマを変えることで違った効果を期待できると感じました。

（企画立案・広報コース ・ 7 / 14 ・ 9 / 8）

超情報整理術を参考に、今後のチラシ作りに役立てたいと思いました。

市民のニーズや悩み等を探り理解する事が大切であるという原点を再認識できました。

チラシ作りとはいえ、企画からよく考えなければと思い知らされました。

民間（講師）ならではの発想力で着眼点の違いに驚きました。

平成28年度 生涯学習課施策取組シート  
 「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組

地域の指導者・コーディネーターの養成

事業名 学校支援コーディネーター研修講座

事業内容

- ・地域コーディネーターやボランティア等を対象として、「地域学校協働活動」の推進のために必要な基礎知識や技術の習得、資質の向上を図る。
- ・3期に分かれ、1期では「講義・ワークショップ」、2期では「活動の参観」、3期ではまとめとして「講演及び事例発表」を行う。

昨年度の成果と課題

- ・＜1期＞170名、＜2期＞128名、＜3期＞100名、延べ398名の方に参加いただいた。
- ・研修方法等がマンネリ化しており、リピーター参加の一部の方から不満が出ている。

今年度の取組

<p>視点 工夫点 強化点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習等により、幅広い視点でコーディネーター力について学ぶ。</li> <li>・参加者のネットワーク作りをする。</li> <li>・ワークショップの形式を変更するなど研修方法を工夫し、参加者の満足度の向上、参加者数増加を目指す。</li> </ul>
<p>事業の成果</p>	<p>＜1期＞5～6月に実施（全4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のアンケートでは、研修満足度が、4点満点中平均で3.5（昨年度3.28）と好評であった。</li> <li>・喫緊の課題をテーマとした講演を実施し、問題提起が図れた。</li> <li>・グループ協議により、様々な地域・立場の方々が、意見交換・情報交換を行い、有意義な機会となった。</li> </ul> <p>＜2期＞7月～12月（実施中、全8回）</p>
<p>事業の課題</p>	<p>＜1期＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回や地域によって、参加人数の偏りが見られた。</li> </ul>
<p>今後の事業の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーターが多い研修なので、マンネリ化しないよう、次年度に向け、研修対象、回数、研修内容、講師等について、見直しを含めて十分検討する。</li> </ul>



「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組

Ⅱ 学校支援コーディネーターの活用

○事業名 ④社会教育担当者研修会

○事業内容

- ・社会教育の現代的な課題に関わる知識・情報、対応策についての研修会を実施し、社会教育・生涯学習の振興を図る。

○昨年度の成果と課題

- ・事例研修を通じた情報交換ができ、市町村での取組みのヒントとなった。
- ・研修内容の精選。（現代的な課題に関わる内容等）

○今年度の取組

視 点 工夫点 強化点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部等の学校と地域が連携した先進的な取組事例の研修を通して、コーディネーターの発掘・活用、学校支援ボランティアの組織づくり等、社会教育担当者としてのコーディネート能力の向上を図るとともに、地域のネットワークづくりを推進する。</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回（9/2実施）社会教育担当者研修会において、「平成27年度優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞した県内2団体の実践発表を行った。参加した市町村事務局の事後アンケートから、事例発表を聞いてよかった（66.6%）、どちらかといえばよかった（33.4%）との回答があり、研修満足度が高かった。また、「学校支援地域本部についてあまり知らなかったもので、今回のような実践事例を聞くことで研修の意義があった。」「他部局との連携を含め、今後検討していきたい。」「放課後子供教室の方向性を考えていきたい。」などの声があった。</li> <li>さらに、事例発表後の分科会にも、「地域と連携した子どもの健全育成事業について」を設け、17市町村の参加のもと情報交換を行うことで、学校と地域が連携・協働するための組織作りに向けての契機となった。</li> </ul>

<p>事業の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援地域本部は、県では生涯学習課が担当しているが、市町村によっては学校教育課が担当している状況もある。今回の研修を活かしてもらうためには、市町村において他部局との連携を図るといった課題や、さらには、財政面の課題も解決していく必要がある。</li> </ul>
<p>今後の事業の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、学校支援地域本部でコーディネーターをしている方々に、活動状況についての実践発表をしてもらった。次年度は、コーディネーターの方だけでなく、支援本部の立ち上げに関わった市町村の事務局や学校関係者を招聘し、より具体的な研修会を行っていく。 また、連携室で行っている、学校支援コーディネーター研修講座との連携、または、講座参加の促進を行い、より多くの市町村で学校と家庭・地域が連携・協働していく組織づくりの契機としていく。</li> </ul>

平成28年度 生涯学習課施策取組シート  
**「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組**

**連携・協働の強化に向けた体制づくり**  
**事業名** 地域とともに歩む学校づくり推進支援事業  
 (学校支援地域本部)  
 放課後子供教室推進事業

**事業内容**

- ・学校・家庭・地域が連携・協働し、幅広い地域住民の参画を得て、学校支援や放課後等の活動を実施し、地域全体で子供たちを育む体制づくりを推進する。

**昨年度の成果と課題**

- ・「地域とともに歩む学校づくり推進支援事業(学校支援地域本部)」の実施は、平成27年度16市町129本部から、28年度16市町133本部へと増加。「放課後子供教室推進事業」の実施は、平成27年度28市町174教室から、28年度29市町202教室へと増加。
- ・地域によって、実施に偏り(都市部で多く郡部で少ない)がある。
- ・「地域とともに歩む学校づくり推進支援事業(学校支援地域本部)」の拡大があまり進んでいない。
- ・「放課後子供教室」では、「放課後子ども総合プラン」に基づく、「放課後児童クラブ」との連携があまり進んでいない。

**今年度の取組**

<p>視 点 工夫点 強化点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施市町村の拡大に向け、積極的に広報を行い、事業の成果等の周知を図る。</li> <li>・地域学校協働活動の推進に向け、「学校支援コーディネーター研修講座」を開催し、コーディネーターの資質向上等を図る。</li> <li>・国の動向等、市町村に情報提供し周知することで、重点施策(「地域未来塾」、「『放課後子ども総合プラン』の推進」等)を中心に推進を図る。</li> </ul>
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校支援地域本部」「放課後子供教室」の実施数が着実に増加し、地域全体で子供たちを育む体制づくりが推進されている。</li> </ul>
<p>事業の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の重点施策である「地域未来塾」及び「放課後子供教室と放課後児童クラブの一体型実施」の拡大。</li> </ul>
<p>今後の事業の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議、研修会、県のホームページ、広報紙等を通じて積極的にその事業の取組と成果を市町村へ周知し、事業の拡充を図る。</li> </ul>

「学校・家庭・地域の連携の再構築」に向けた取組

Ⅲ 連携の強化に向けた体制づくり

○事業名 ⑥通学合宿推進事業

○事業内容

- ・子供たちが親元を離れ、地域の公民館や青少年教育施設等に宿泊しながら通学する「通学合宿」を推進し、団体生活の中で日常生活の基本を学ばせるとともに、子供たちの社会性、自主性、協調性を育む。運営に地域住民の参画を促進することにより、地域ぐるみで子供を育てる機運の醸成と地域コミュニティの活性化を図る。

○昨年度の成果と課題

- ・県ホームページや各種会議での広報を行ったため、前年度（H26年度実施・20市町村、H27年度・18市町村）とほぼ同数の開催を確保することができた。
- ・活動に携わる支援スタッフの高齢化や地域の意識の変化により、事業実施が難しいと回答する市町村が増加傾向にあることが課題である。

○今年度の取組

<p>視 点 工夫点 強化点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進事例や実施市町村の状況を集約し、県ホームページにて公開し、未実施市町村への啓発を行い、地域住民の参画を推進する。</li> <li>・各種会議や県ホームページ等における普及啓発をとおり、地域の体制作りを推進し、地域住民の意識を高める。</li> </ul>
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在各市町村からの実施報告を集約しているところである。17市町で実施予定だが、現在3市町から実施報告があがっている。参加者の感想とともに、保護者からの感想で「自分の事は自分でできるようになった」等の意見が多く寄せられている。</li> </ul>
<p>事業の反省</p>	<p>※事業継続中</p>
<p>今後の事業の在り方</p>	<p>※検討中</p>

## 平成28年度 通学合宿実施例

通学合宿の名称		九十九里町通学合宿			
通学合宿の概要		学校と家庭の理解と協力のもと、地域の様々な社会教育関係者やボランティアの協力を得て実施している。子どもたちの自主性や協調性を伸ばし、「生きる力」を育むことを目的としている。			
主催〔実施主体〕 (共催・後援・協力)		九十九里町通学合宿実行委員会（町子ども会育成連絡協議会、町青少年相談員連絡協議会、町食生活改善協議会、町内3小学校PTA、町ジュニアリーダーズクラブ）			
期日〔期間〕		平成28年 6月22日（水）～ 6月25日（土）〔3泊4日〕			
		平成28年 7月 6日（水）～ 7月 9日（土）〔3泊4日〕			
宿泊場所		九十九里町中央公民館			
対象校		九十九里町立片貝小学校、豊海小学校、九十九里小学校			
登下校の手段		町の公用車で送迎			
参加者の募集方法		小学校を通して、対象学年児童（小学4年～小学6年）へ全員配布			
募集人数／参加人数		（募集） 60人 ／ 〔参加〕 66人			
参加費〔内訳〕		3500円〔内訳：食費、保険代、雑費〕			
食事の提供方法（※自炊の場合は食材の用意手段も）		全員で自炊（1日目の夕食、2日目の朝食はスタッフで事前に食材を用意。2日目夕食以降については、子供達で買い出しを実施。）			
入浴（※宿泊場所以外は場所と代金も）		サンライズ九十九里 入浴料：無料			
スタッフ人数	主催者側担当者数	7人		行政職員等人数	5人
	ボランティア人数	高校生	大学生	その他（町食生活改善協議会、看護師、PTA、子ども会、ジュニアリーダー）	
		0人	0人	23人、 3人、 8人、 1人、 8人	
プログラムの特徴		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事メニューを事前説明会時に参加者達に作ってもらっている。</li> <li>・最終日の昼食は親子料理教室を開催している。</li> <li>・入浴はサンライズ九十九里を無料で利用させていただいている。</li> </ul>			
運営上で工夫したところ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食は、なるべく短時間で準備から片づけまで終わらせなければならないため、パンを主食とした。</li> <li>・支援ボランティアとして地元の看護師資格をもった方に宿泊してもらった。</li> </ul>			
参加者の声 (感想：参加者・保護者)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食と夕食を自分たちで作りと、とても貴重な体験ができた。（参加者）</li> <li>・他の学校の友達が増えた。来年も参加したい。（参加者）</li> <li>・身の回りのことをすべて自分でやり、お母さんがいつも大変なことをやってくれていることを知った。（参加者）</li> <li>・みんなとお風呂に一緒に入ってとても楽しかった。（参加者）</li> <li>・みんなでご飯を作ったり、一緒に寝たりして楽しかった。（参加者）</li> <li>・他の学校の友達が増えた。（参加者）</li> <li>・通学合宿は楽しかったので、来年も参加したい。（参加者）</li> <li>・通学合宿で学んだことを家でもやってみたい。（参加者）</li> </ul>			
成果と課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町食生活改善協議会の協力（調理時の補助、メニュー決め）により、児童の生活力の向上につながっている。</li> <li>・事前指導（調理の仕方、包丁の使い方等）ができないため、児童の知識等の不足により安全面の不安や作業の遅れがでる。</li> <li>・協力者・協力団体の後継者が不足している（長年同じメンバーで行っている）。</li> <li>・参加児童が消灯時間を守らず遅くまで起きています。どの程度まで厳しく注意して良いのかわからない。</li> </ul>			

# 平成28年度 通学合宿実施例

通学合宿の名称	平成28年度神崎町通学合宿		
通学合宿の概要	<p>家族を離れて、異学年の人と生活をともにし、生活体験や社会体験の実体験を積んだりする事によって、協調性や社会性を養うとともに、自立心を高め、自分や自分の家族を見直す機会とする。地域での人のつながりを深めるとともに、地域社会の教育力の向上と地域社会で子育てを支えていこうとする気運を高める。</p>		
主催〔実施主体〕 (共催・後援・協力)	神崎町子ども会育成連合会・神崎町教育委員会〔主催〕		
期日〔期間〕	平成28年9月29日(木)～10月1日(土)〔2泊3日〕		
宿泊場所	神崎ふれあいプラザ 文化ホール		
対象校	神崎町立神崎小学校・神崎町立米沢小学校		
登下校の手段	徒歩・公用車による送迎		
参加者の募集方法	小学校をとおして、対象学年児童全員に配布		
募集人数／参加人数	(募集) 24人 / [参加] 21人		
参加費〔内訳〕	2,500円〔内訳：食糧費・入浴料 等(不足分は会より補助)〕		
食事の提供方法 (※自炊の場合は食材の用意手段も)	参加者および保護者で自炊(食材の買い出しは、在校中にスタッフが行う)		
入浴 (※宿泊場所以外は場所と代金も)	1泊目：近所のお宅でもらい湯 2泊目：茨城県にある「あずま健康センター」にて入浴(子ども入浴料432円/人)		
スタッフ人数	主催者側担当者数	8人	
	行政職員等人数	3人	
ボランティア人数	高校生	大学生	その他(子ども会役員・もらい湯提供宅外)
	人	人	約20人
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と交流を図るため、近隣住民に協力をいただきもらい湯を提供いただいている。</li> </ul>		
運営上で工夫したところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動では毎年違う内容を取り入れている。</li> <li>・参加児童が、自ら取組むように班割りや役割など事前説明会を行った。</li> </ul>		
参加者の声 (感想：参加者・保護者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とごはんを作ったり、お風呂に入ったりして楽しかった(参加者)</li> <li>・お母さん達の大変さが分かった(参加者)</li> <li>・他学年との交流もできて充実した生活ができてよかった(保護者)</li> </ul>		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が定員を割り、人員確保が難しくなっている</li> <li>・もらい湯提供宅の確保が難しくなっている</li> </ul>		